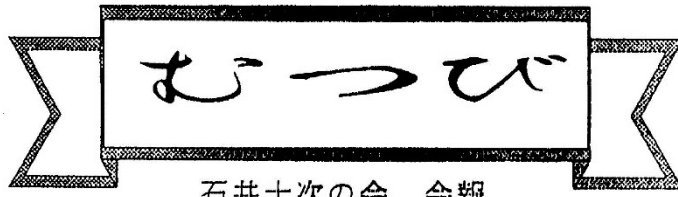


2022年
(令和4年)
2月10日



293号

偉人たちへの想い

宮崎県都農町長 河野 正和

私が、石井十次を知ったのは何時のことだったか。名前をお聞きしたことはあっても、印象として確実に認識したのは、多分、高鍋高校在学中であったと思います。

町長になり、木城の友愛社を訪ね、より具体的な偉業に触れて、あらためて石井十次の偉大さを実感しました。

いつの世も、何かを切り拓くことは容易ではなく、想像を絶する苦勞があり、協力者だけではなく、どちらかといえば批判や変人扱いのほうが多かったのではないかと感じたところでした。

また、同時に私の両親と幼少期を思い出しました。

私の父は、私が物心つく前に出稼ぎで事故にあい、右手をなくしました。身体障害者、しかし、何事も人の力を当てにせず辛かっただろうけども愚痴や泣き言を言わず農作業に打ち込み工夫を続ける父の姿と、現金収入を得るために仕事に行きながら、早朝から夜遅くまで、休みの日も父の農作業を支える母の姿。母は、田植えの共同作業で配布される赤飯のおにぎりを自分で食べずに持って帰り私達子供に食べさせていたことを思い出します。子供ながらに、貧乏ながら年中無休で一生懸命に働く両親・祖父母と兄弟も含めて家族で助け合って暮らしている、我が家の温かい愛情に包まれていると感じていました。父と母の背中で

示した人生が私の支えです。そして、大人になり自分も素晴らしい家族を得て今があります。幼少期から変わらず、両親や兄弟、妻、子供達の愛を感じながら感謝の日々を過ごしています。

この感謝の気持ちのベースはどこにあるのかと、考えました。やはり、幼少期に抱いた愛に包まれた暮らしだと思います。

孤児院で暮らし、巣立っていった児童達も、私と同じように子供ながらに同じような幸せ感を抱き、今も、それをベースに、自分なりの恩返しをしているものと推察しています。

私は、「偉業」という言葉よりも「ささやかな温もり・幸せ」という言葉が好きです。石井十次も行いは偉業ですが、ささやかな温もり・幸せでいいから子供達に感じてほしい、そしてその「ささやかな温もり・幸せ」を力にこれから先の人生を逞しく生きてほしい、そして、だれかの「ささやかな温もり・幸せ」をつくるために頑張ってもらいたいのではないのでしょうか、と勝手に想像しています。

本町は令和2年に町制施行100周年を迎えました。コロナ禍にあって式典のみを縮小して実施することしか出来ませんでした。しかし、その準備の過程で町民の皆様とこれまでの100周年を振り返りながら、あらためて先人達の想像を絶するご苦勞と頑張りのうえに今の私達の暮らしがあると感謝にあふれた一年を過ごすことができました。

石井十次をはじめ偉大な先人達の想いが少しは理解できるようになったかなと思う今日この頃です。

コロナ雑感

1 驚異の感染力・オミクロン株

一昨年からの新型コロナウイルスは世界中に広がり各国の対応策を困難にしています。

昨年の秋ごろからは、今度は感染力の強い変異株「オミクロン」の出現で第6波として行政の最適な対処の方法がより一層求められています。

ワクチンの摂取回数も2回から3回にと増えました。もしかしたら、4回になる可能性も見えてきます。

医療関係者、特に患者に直接携わる看護師のナイチンゲール精神には感動します。また、医師の存在、介助者の献身的な対処にも頭が下がります。

2 気になる緩み

ところで、私は高齢者に最適と思われるスポーツのグラウンドゴルフに勤しんでおります。

マスク装着は女性は9割程度ですが、男性が2割程度です。女性は、家庭を守るという本能からかそれなりの対応をされて居られます。基礎疾患を有するのにマスクを着用していない男性が私にはとても気になります。また、買い物で利用するスーパーで、マスクの着用はされて居られますが手指の消毒はされない人もよく見かけます。気の緩み？

今年に入り、若者を中心にウイルスの変異株「オミクロン」が全国的に感染拡大している事が、有識者の発言や報道によってわかります。人が集まる事業所等は特に深刻です。幼年期の子供や児童・生徒の集まる保育園、教育現場等の関係者の苦悩は察するに余りあります。

3 十次のコレラ感染と今のコロナ

人類は昔から感染症に苦しんできました。中世のヨーロッパではペストが猛威を振るいました。江戸時代の日本では天然痘が流行しました。明治になっても感染症との戦いは続きました。

そういえば、我らが石井十次も感染症「コレラ」に苦しめられました。
(「石井十次物語」96頁・・・松本こーせい著 石井十次顕彰会発行)

書物に拠れば、明治28年(1895年)「岡山市内でコレラ流行 十次ら感染し隔離で事業不能に 全国に支援を要請」と記してあります。感染症はいつの時代でも怖くて油断ができません。

コロナのオミクロン株は、弱毒性ではあるが感染力は爆発的です。今回の第6波は過去と比べても感染者数は圧倒的です。

「換気、手指消毒、マスク着用」や3密回避を徹底し、この困難な状況を十次に負けることなく共に乗り越えましょう。

編集委員 生駒 亮

★新規会員のご紹介(敬称略)

【福岡市】小堀 康治

★ご寄付をいただきました(敬称略)

(一般)

【西都市】三井 京子

【東京都】竹越 浩一

(奨学金基金へ)

【宮崎市】日高 美恵子

【東京都】上村 直子

【延岡市】佐藤 民男

★12/16～1/20の資料館来館者

団体・グループ		0人
個人	大人	19人
	小中高生	1人
	計	20人

ここまでの掲載者は編集委員会開催の都合により1月20日までのものとしています。

★3月号の通信発送作業

3月 9日(水)9時から印刷・製本

10日(木)9時から印刷・製本

*状況によっては中止させていただくことがあります

★お知らせ

2月19日(土)に予定しておりました宮崎支部主催の香月克公氏講演会はコロナ感染拡大のため、開催を延期することになりました。なお、延期後の開催日時につきましては、あらためてお知らせします。

この会報は、宮崎県を中心に全国 1700余の個人・団体に毎月送付しています。
 社会福祉法人 石井記念友愛社
 ☎ 884-0102
 宮崎県児湯郡木城町大字椎木 644-1

後援会「石井十次の会」

TEL/FAX 0983-32-4612

メール

yuuaisya-jyuujinokai@kijo.jp

《 おしらせ 》

●グラウンドゴルフ大会開催報告

昨年11月28日(土)午前9時半～12時まで、石井十次の会と友愛社「天心館」児童との交流を目的とした、グラウンドゴルフ大会を開催しました。

橋田和美会長のあいさつ後、競技がスタート。1チーム(子供3名+大人2名)。6チームを編成し、8ホールを回りました。

11月の青空に球を打つ音と、子供と大人の笑い声が響いた良き日でした。

●クリスマス会に参加して

昨年12月26日(日)午前9時から友愛園三友館ホールにて、クリスマス会が開催されました。

プログラム

〈第1部〉

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1.開会の言葉 天心館館長 | 2.讃美歌「きよこの夜」 |
| 3.聖書朗読 高校生代表 | 4.聖書のお話 松井初牧師 |
| 5.1年間の反省 三友館館長 | 6.お話 児嶋草次郎園長 |
| 7.讃美歌「もろびとこぞりて」 | |

〈第2部〉

- (天心館:男子) 研究発表「僕らの!! じゅうじ研修
～毛のないタヌキのヒミツ」
*友愛園庭に出現する「毛の抜けたタヌキ」その原因を考察し発表
- (高鍋小規模:じゅうじの家) 劇「Cinderella」 *英語での劇
- (天心館:幼児) 「読み聞かせ&ダンス
～南の島のハメハメハ大王～」
*幼児が大型絵本を使って「大きなかぶ」の読み聞かせ
- (生命館:中高女子) 「心を一つに Let's line dance」
*音楽に合わせて、息の合ったラインダンスを披露
- (三友館:隆盛の家) 劇「大切なもの」
*子供たち全員将来の夢を発表
- (三友館:竜馬の家) 劇「Don't stop trying」
*ビデオを使って、サッカー・バスケット・卓球の練習と技を披露
- (天心館:女子)音楽劇「ライオンキングより」
ハクナ・マヌク ～将来の夢～
*ハクナ・マヌクとはスワヒリ語で「どうにかなるさ、くよくよするなの意味」
- (全員)「石井十次の歌」 閉会の言葉

このクリスマス会の出し物を通して、子供たちが「夢」を持って生きる事の大切さを表現してくれました。子供たちの夢が実現するように、児嶋草次郎園長や子供たちに関わる職員の方々日々の生活を支援して下さっていることを感じました。

*編集後記

「むつび」巻頭言は都農町長・河野正和様から玉稿をいただきました。ありがとうございました。グラウンドゴルフ大会は「永田杯」と言っても過言ではないほど、会員の永田克己様が毎年準備・運営を主導して下さっております。深く感謝申し上げます。

*文責 松下さおり